

美しさは、つくるものではなく、滲み出るもの。
豊かさは、与えられるものではなく、感じとるもの。

世界は既に美しい。
前提として、こう考えています。

建築は暮らしの背景で良い。
あえて飾りたてようとしなくて、
ほんもので、素直につくれば、
自然と滲み出てくる良さがあるものです。

その瞬間瞬間を「感じよう」と
ていねいに向き合うことから、
豊かな暮らしは始まります。

建築のプロセスで、感性を育む。

私たちは「つくること」のもう一歩先、
「想いを伝えること」を最も大切にします。

それは、ものごとの見方や捉え方次第で、
住まい手にとっての建築の価値は
大きく変わっていくからです。

建築のもつ価値を最大化し、
建築とともに幸せに生きていくため、
心を育むことに丁寧に向き合います。

日々の暮らしに、愛着を。

一人ひとりが心に育んできた感性。

住まい手は新たな暮らしの何気ない瞬間の中に、
たくさんの美しさや豊かさを見いだしていきます。

そうした小さな瞬間の積み重ねが
建築への愛着となっていくことでしょう。

人生の真ん中にある日々の暮らし。

そこに「愛着」の火が灯るなら、
それは幸せな人生と言って良いはずです。

行動指針

1. まず人として信頼される

例えば「気持ちの良い挨拶をする」というような人として大切にすべき基本的な振る舞いを真っ先に大切にしよう。

建築のスキルだけでは、
本当の信頼を得ることはできません。

まず人として信頼されることが
あらゆるコミュニケーションの土台です。

2. 根本の考え方を大切にする

デザインやコミュニケーションにおいて、
表面に現れている結果は氷山の一角に過ぎません。
本当に着目すべきは、その根本にあるものです。

人間において | 成果 ← スキル ← 習慣 ← 人生観
建築において | 完成物 ← 手法 ← 目的 ← 建築観

根本を大切にすることで初めて、
芯の通った提案ができます。

3. 意思を持ち、提案する

建築のプロセスにおいて、
私たちはリーダー的な役割です。

受け身になって、
言われたことを実行するだけの人にならず、
どんな小さなことも自らの意思で提案しよう。

決断の責任と喜びを率先して引き受け、
チームを先導していこう。

4. 価値観を添えて伝える

私たちの提案する一つ一つに対して、
そこに至る価値観まで丁寧に伝えよう。

つくることと同じくらい、
伝えることを大切にしよう。

「言わずとも伝わる」と傲慢にならず、
一つ一つ言語化することに向き合おう。

5. 学びを成長に繋げる

- ・学ぶって楽しい。
- ・学びは自ら掘みに行く。
- ・学びを分かち合う。

この3つの姿勢が私たちの成長の要です。

自ら学びを楽しみ、皆と分かち合うことで、
成長の好循環を生み続けよう。

6. 小さな改善を積み重ねる

ほんとうに美しい石積みは
大きな石だけでは成り立ちません。
大きな石も小さな石も
一つ一つ大切にしよう。

クライアントや現場の声にヒントがあります。

小さな改善に注意深いまなざしを向け、
小さな改善を積み重ねよう。

7. まっすぐ期待に応える

私たちには積み上げてきた実績と信頼があります。
クライアントもそれを感じてやってきてくれます。

あらゆるシーン・立場で何を求められているか、
機敏に察知し、一人一人が役割に自覚的であろう。

そして、恣意性や奇抜さに逃げず、
まっすぐ期待に応えよう。